

魔法のダイアリー プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 盛光秀之

所属: 川崎市総合教育センター塚越相談室

記録日: 2019年2月9日

キーワード: 読み書き障害 小中連携 合理的配慮

【対象児の情報】

学年 中学校 1年生

・障害名

読み書き障害 (ディスレクシア, ディスグラフィア)

その他 (聴覚過敏あり、アーレンシンドロームの疑い、ADHD の疑い)

昨年度から介入したケースである。

https://maho-prj.org/2017PRJ/lreports/A_盛光秀之_川崎市総合教育センター.pdf

・障害と困難の内容

○学習面

①読みの困難さ: 漢字を読むことや、どこで区切るのかがわからなくなる。文字を音にする速度が遅く、読んだ後に自分で理解ができない。

②書きの困難さ: ノートテイクすることはできるが、字形が整わず意味を理解しながら写したり、考えたりすることが難しい。作文は苦手である。

○生活面

授業で必要な道具を忘れてしまう。 スケジュールを忘れてしまう。

計画を立てることが難しい。 聞き漏らしが多い。

【活動目的】

・当初のねらい

①中学校への移行支援をして、学校で ICT 利用することにより対象生徒の学びを保障する。

②対象生徒に合った学習方法を提案することで、定期テスト6割を目指す。

③対象生徒が自己理解を深め、充実した学校生活を送れるように心理的なサポートをする。

・実施期間

平成30年4月～平成31年2月

・実施者

川崎市総合教育センター 指導主事 盛光秀之

実施者と対象児の関係

元は教育相談担当者だが、現在は個人研究として関わっている。

【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

●今までの経緯

- ・ 4年生から学校が楽しくないと言い出し、原因不明の発熱などで早退が増えた経歴がある。
- ・ 本人は努力しているが、中々学習が定着しない。
- ・ 5年生まで病院、療育センター、児童相談所など様々な機関で相談したが本人の困り感は解消できなかった。
- ・ 中学校に向けて学習面で不安である。本人が少しでも学習できるように母親として何が出来るか考えたいと相談室へ相談。申し込みは2017年1月24日、インテークは同年2月8日。
- ・ 読み書きの困難さから能力が発揮できていないことがわかり、ICTによる代替案を提案して自己理解が深まり学習への意欲が向上した。

●読み書きの実態

- ・ 漢字が覚えられない。
- ・ 明日の漢字テストなら50点くらいは取れるけどすぐに忘れてしまう。
- ・ 板書すると疲れてしまう。
- ・ 片仮名は読めていなかった。
- ・ 漢字が入る文章もたどたどしい読みとなる。
- ・ 図形認識が苦手な様子あり。立体図形はどこが底面になるかなどはわからない。
- ・ URAWSSの結果：読み速度C、書き速度Aだった。書き速度はAだが、1文字ずつ見ながら写しているようすがあった。また間違えが多く字のバランスも悪かった。

●6年生の学習状況（ICTを利用した結果）

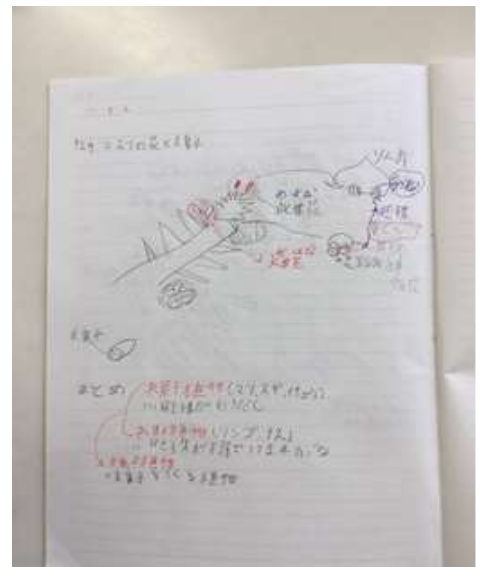
- ・ 全ての教科でB評価
- ・ テストでは7~8割とれている
- ・ 漢字の書き取りに関しては、3割程度の定着率である。
- ・ 計算はケアレスミスがあるが、概ね理解できている。

●生活・行動面

- ・ 友人関係は良好である。
- ・ 現在サクソフォンを習っている。
- ・ 小学校では学習面以外について特に問題ないと言われてきた。
- ・ 真面目で素直である。

●中学校入学後4月の状況

- ・ ノートの様子（右上写真）形を捉えるのが苦手なので人の倍の時間がかかり、しかも内容は覚えていないとのことだった。
- ・ 英語のアルファベットの書き取りは、努力しているが形が整わない。
- ・ 中学校では吹奏楽部に入り、サクソフォンの担当となった。練習を家庭でも楽しんでいる。



・活動の具体的内容

①中学校への移行支援をして、学校で ICT 利用することにより対象生徒の学びを保障する。

◎ 2月

- ・母親が学校の特別支援教育コーディネーターに相談を申し込み、今までの経緯を説明する。

◎ 3月

- ・昨年度研究協力者の小学校 6 年生担任が学校での具体的な支援について中学校と情報交換をする。
- ・塚越相談室から、特別支援教育コーディネーターに連絡をしてコンサルテーションを実施して、今までの経緯を伝えた。

◎ 4月

- ・学校長含め学校が理解を示して、以下の内容の許可をもらった。

①教室内での ICT 機器利用

②定期テストは別室で ICT 利用

①教室内での ICT 機器利用

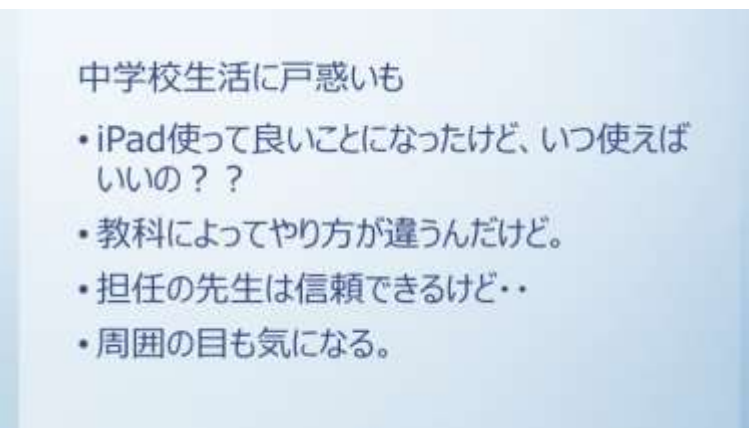
- ・担当者が学校訪問をして、担任と情報交換をした。担任はどのような支援をすればよいかわからないので、教えてほしいと言ってくれたので、今後も定期的に情報交換をすることになった。
- ・本人が iPad 利用できるように、教室でクラスの生徒に向けて担任が利用する目的を説明した。



担任が考えてホームルームで理解啓発授業を実施した。

読み書き障害を補うために合理的なことを説明してくれた。これによって、本人は iPad を学校に持っていくようになった。

- ・対象生徒は教室内での iPad 利用に戸惑いがあることを担当者に話した。



本人からの困り感を聞き、担当者が担任に連絡をとり内容を伝えた。

担任が理科を担当しているので、利用方法を説明して、教科を絞って使ってみることにした。まずはカメラ中心で利用することにした。

・理科の授業で葉の拡大画像をとることに利用した。



左の写真は、今日の理科の授業で、友達と一緒に葉緑素の写真を iPad で撮影したことを担当に LINE で知らせてくれた。

担任が促すことで利用していたが、その後は本人がノートテイクを続けたいという意向があるため、H31年2月現在利用頻度は上がっていない。ただ、明らかにノートテイクすることに負担感があるので、今後も持ち込むことだけは続けて必要に応じて使えるようにしていきたい。

②定期テストでの利用

川崎市は2期制のため、中間テスト（6月、12月）期末テスト（9月、2月）となっている。

◎読みの保障のために

読みを支える支援として Office Lens から イマーシブリーダー



本人の話ではタッチ&リードより認識が良いから、こちらを使いたいとのことだった。

タッチアンドリードの方が読み方が雑だからイマーシブリーダーがいい

中学校の定期テストは別室で iPad を利用している。ただ、全く読めない訳ではないので、国語は必ず使っているが、その他の教科は使わないこともある。本人がテストに合わせて利用している。テストは一度間違えてルビ付きを渡されたことがあり、OCR の読み取りが困難だったが、自分から変えてもらえるように伝えることができなかった。現在は確認してあるので、間違いはないが、今後自分から配慮を伝える力も必要と考えられる。

中学校定期テストの様子



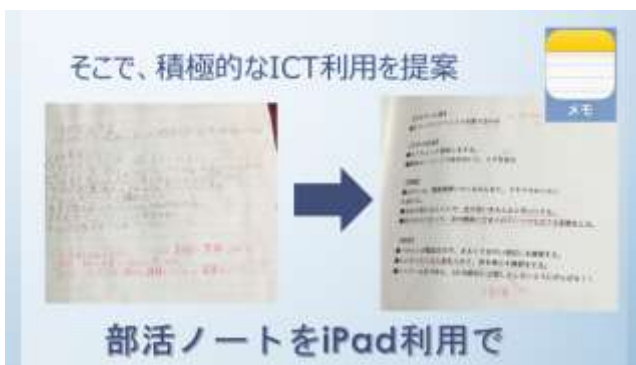
②対象生徒に合った学習方法を提案することで、定期テスト6割を目指す。

・書きの困難さ軽減

ノートテイクの方法を広げるために、apple pencil と相性が良いマゼックを試してみた。



⇒しかし本人の書き順が違うことや字形が整わないため、認識が悪く逆にストレスとなったため利用はしないことにした。物理キーボードとフリック入力を練習していくこととした。



家庭で部活ノートを書くことに1時間かかることもあり、本人の負担感が強かったので、デジタルに変更して物理キーボードで入力している。プリンターも Wi-Fi の設定をして、印刷へのアクセスも容易にできるようにした。最初は時間がかかるので母親に手伝ってもらったが多かったが、今ではほとんど自分の力で入力できている。



細かな枠に文字を書くことは苦手としているので、入力は GoodNote4 を利用した。特に夏休みの宿題である予定表を書くことには有効であった。

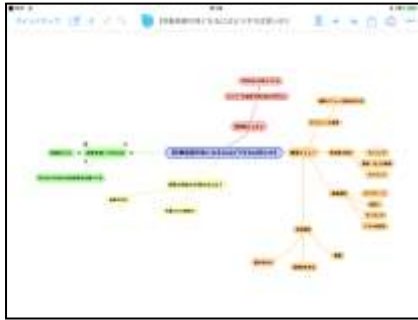
使い方については、YouTube の動画で使い方紹介しているものを紹介したり、画面録画機能を使った動画を LINE で送ったりして支援した。



左写真はテストの計画を立てているところ。中学校の予定表は枠が狭くて書きづらいため、家庭で拡大印刷して記入している。本人には ICT か拡大印刷を選択させて、本人が希望する方で、応じるようにした。学校は、本人が希望するものを使っても良いとしてくれているので、対象生徒は安心して取り組むようになった。

思考の整理や振り返りの困難さ

- ・夏休みの作文課題は simplemind を使いマインドマップでまとめて、音声入力を利用した。



吹奏楽部に入部して、夏休み中にあったコンクールに出場した。今後はもっと高い評価を得たいという願いをもっているのので、吹奏楽部を強くするにはという題名で作文を考えた。

音声記憶の良さを生かす



ホントにわかるシリーズは動画授業がついていて、教材の内容をすべて読み上げてくれる。内容もコンパクトにまとめられているのが特徴。対象生徒には使いやすかったようで「先生にすすめてもらった教材つかいやすい」と言っていた。



アプリ名：暗記カード+読み上げ機能があるので、一人で学習を進めることができた。定期テストに最低限必要な情報は音声入力で問題を作成して、繰り返し音で確認した。

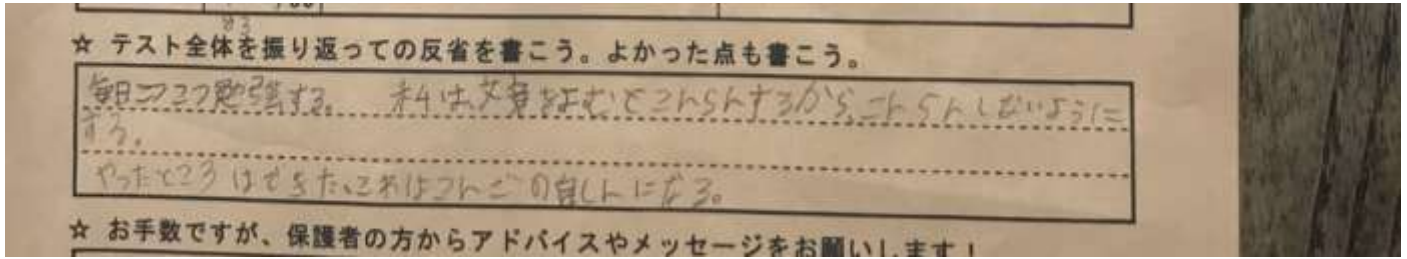
英語の取組

「アルファベットも単語もわかるけど、書けない」と本人は言っていたので英語は並び替え中心で練習して、低い点数になっても、他でカバーすることを確認した。



教材を取り扱う店舗でしか取り扱っていないので、母親が担任の先生にお願いして購入してもらった。現在でも単語はほとんど覚えることができないが、並び替えならば理解できていることが多い。

ここまでの取り組みを通しての対象児の事後の変化



上の写真は、定期テスト後の感想と振り返りのコメントである。本人の良さは失敗を次に生かすことができるところなので、次の定期テストに向けて ICT 利用を含めて相談していきたい。4 月に比べて学習に対しての前向きな発言が多くなっている。まだ、部活と学習の両立までは至っていないが少しずつ自分のスタイルを作って学習習慣をつけていっている。

③対象生徒が自己理解を深め、充実した学校生活を送れるように心理的なサポートをする。

SNS を利用した取り組み

頻繁に連絡がくるようになった。特に、嬉しいことや頑張ったことを報告してくれることが多く学校生活が充実していることが予想される。



写真のシャッター音を消したいと要望があった。その他にも国語って何を勉強すればよいかなど具体的な方法を聞くことが増えている。



iPad の操作方法は全て画面録画して、こちらから送っている。画面録画機能+音声を入れると本当に便利で遠隔指導に有効である。



使い方を教えるときは好きなものを使うようにした。GoodNote の練習は今大好きな King & Prince のアルバム作成。

自己理解への取組



対象生徒は小さいころからサングラスを好む、転導性があるなどから、アーレンシンドロームの疑いもあるように感じたので左写真のカラーシートを試してみた。結果本人はピンク色だと読みやすいと感じたようだった。そこでピンク色のレンズのサングラスを試したところ、落ち着くと言って学習時間が長くなっている。本人も良さを実感している。また、数学の立体図形ではどこを見ればよいかわからなくなるので、蛍光ペンを利用して立体図形の辺に色をつけることで、図形が理解できることもわかった。次回の定期テストでは、サングラスと蛍光ペンの利用を申請した。中学校側は理解があるので、どちらも利用許可をもらっている。

ここまでの取り組みを通しての対象児の事後の変化

「先生〇〇なんですけど、どうすればよいですか」とアドバイスを求めることが増えている。学校が楽しいと言っているのも周囲にサポートされながら自分らしく生活できている。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づきとエビデンス

①自分に対する評価が高くなり、学習に対して前向きに取り組むようになった。

定期テスト結果

	前期中間テスト	前期期末テスト	後期中間テスト	後期期末テスト
国語	27	27	44	36
社会	44	68	56	59
数学	49	46	29	26
理科	48	33	47	57
英語	31	28	22	21
5教科合計	199	202	198	199

・成績は横ばいだが、テスト範囲が増えて、内容が難しくなっていることを考えると一定の成果はある。社会や理科など努力したものが成果に結びついているので、本人の意欲も高まっている。

・英語に関しては、並び替えは正解しているが他で点数がとれていない。

②周囲の理解が深まり、情緒面や体調が安定した。

・欠席や早退もなく、学校生活が楽しいと本人は言っている。先日の誕生日には多くの友人からメッセージやプレゼントをもらい喜んでた。担任の先生からの聞き取りによると、本人のがんばりをクラスの生徒も認めているので、みんなが応援しているとのこと。学校生活は充実している。

③自分の特性に気づき、それに応じた学び方を試している。

・中学校での百人一首大会のエピソード



アプリ名：百首読み上げ、百人一首チャレンジ
自分から音声のあるアプリを選び熱心に百人一首を覚えていた。耳で覚えたものは、文字を手掛かりに再生できるので、学校で出されたプリントを休み時間にも繰り返し覚えて、結果百人一首大会で学年10名程度に選ばれる優秀な成績だった。

【今後の見通し】

- ①中学校への情報提供と情報共有を図る。
- ②ノートテイクの方法を試していく。
- ③今後の学習量に対応できる学習習慣の確立。
- ④ワークシートのデータを提供してもらう。
- ⑤予定管理を ICT 利用する。
- ⑥英語に対する対策を立てる。